

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372600979		
法人名	有限会社 アール・ザ・エイチ		
事業所名	グループホーム虹の家		
所在地	愛知県豊川市牛久保町天王下6番地の1		
自己評価作成日	平成24年10月22日	評価結果市町村受理日	平成25年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaijokouhyou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル2階		
訪問調査日	平成24年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

虹の家では、個人の生活スペースを尊重した生活ケアの取り組みとして生活の基本となる食事に力を入れています。時には庭の畑で取れた季節野菜も加わり、利用者様の希望メニューを取り入れながら三食手作りでバランスの良い食事を提供しております。また、利用者様の健康管理にも気を付けており、家人に毎月近況報告の手紙を出しています。病院受診もスタッフが同行しています。レクリエーションの時間は意欲的に活動できるように、個人に合った運動・脳トレを支援しています。季節感を出す為の行事、室内装飾などもスタッフと共に制作しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から道一筋入った田畑の広がる静かな住宅地に位置し、周りには小学校や保育園、喫茶店などがあり、人の触れ合いや自然を感じ取りながら過ごせる環境にある。「虹」のような豊かな個性を持ち合わせる入居者の思いや個性を大切にとする理念を職員皆が共有し、入居者としっかりと向き合い、一人ひとりのペースに合わせた支援に努めている。避難訓練や散歩を通して近隣の人との関わりを大切にしたり、図書館や公民館など広域な地域との触れ合いから新たな場所や人との関係作りにも努力をしている。ホームの全体が見渡せる広い食堂兼居間に入居者は集い、好みのテレビ番組を見たり好きな歌を口ずさんだり、新聞や雑誌に目を通し自由な時を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に意識しながら利用者様の個性を尊重したケアを行っている。ケアの情報交換は、カンファレンス等で話し合い取り組んでいる。	理念をわかりやすくし、語りかけるような文体で玄関に掲示している。月1回のカンファレンスで職員間で確認をし、「入居者の個性を大切にする」という理念に沿って入居者と同じ目線で、同じ立場で毎日のケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、地区運動会、地区文化祭等に積極的に出かけ、地域との交流を持ちながら生活している。定期的に音楽、気功パワー、話し相手等のボランティアの訪問を受けている。体験学習や実習生の受け入れも行っている。	事業所は町内会に入会し、積極的に地域の情報を得るようにしている。市民館で実施される文化祭に入居者の作品を出展し、事業所のアピールにもなっている。近所の方とは気軽に声をかけあい、交流を深める努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭り、クリスマス会などのイベントに地域の人々の参加を呼び掛けたり、散歩、買い物、地域の催しものに出かけ、言葉を交わしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外出行事、季節行事や防災訓練等の活動状況や利用者様の様子を報告している。課題については話し合い意見をもらってスタッフ全員で取り組んでいる。	運営推進会議には、入居者、家族、民生委員、市会議員、市民包括センター職員の参加があり、意見や要望は、カンファレンスで報告し協議され、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアサービスの取り組みについては、運営推進会議で地域包括支援センターの職員に報告できている。	行政とは認定申請の折に訪れたり、制度・研修等の情報交換を通して連携を図り良好な関係にある。豊川市介護保険連絡協議会主催の講演会や事業所ごとの会議で情報交換もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをしている。玄関の施錠は不穏時に危険防止の為に、一時的(早朝や夕方以降)にする時もある。	入居者には常に親しみを持った自然な声かけや話し方に努め、離設をするときは入居者の気がすむまで付き合っている。職員は市主催の研修会に参加し、カンファレンス等で伝達研修をして内容の共有をしている。言葉や態度に配慮し、入居者が抑圧感のない暮らしができるように心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はない。入浴時、着替え等、日々のケアの中でスタッフ同士で確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいない為、話し合いをしていないが、今後学ぶ機会を設け理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の説明に納得された事を確認した上で手続きを進めている。利用者様が安心して生活が出来るように家族から情報を得て話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、家族からの意見・要望はいつでも受け入れられる状況にあり、サービスの質の向上につながるよう取り組んでいる。	日常の面会時、夏祭り、クリスマス等事業所の行事時に意見や要望を聞き、運営に反映させている。運営推進会議不参加の方には、会議情報も伝えている。偶数月ホーム便りを発行し、情報を家族に提供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気づきの内容により、個別又はカンファレンス時に意見や提案を求められ、サービス向上に反映されている。	日常の業務の中で、要望や提案があるので、随時連絡帳に記入し、カンファレンスの中で話し合い運営に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や気付きを検討して、いつでも職員が働きやすい環境で仕事ができる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人に合わせての勤務の取り組みや職員間の協力で上達出来るように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に出席した時に他の事業所の方と情報交換をしたり、他グループホームに見学に行き施設長と話をする機会を設け質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安に対して時間の許す限り話を傾聴し、情報収集した内容はスタッフ全員で共有してサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、サービス担当者会議にて家族の要望等を取り入れ、サービスを計画に取り入れている。サービス内容に関しての状況は、来所時や状況報告の手紙で知らせている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、家族からの要望は実際の利用者様の状況に対してスタッフ全員で個人の情報を連絡メモに記入し、一番適した方法でサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯物干し・たたみ、調理等を共にに行っている。お互いが協力しながら生活できる様に考えを主張しあったり、話し合ったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様、家族の話を良く傾聴し、どちらにも無理のないような関係が保たれるように支援している。気付きの点がある時は連絡をとり話し合いの中で共有する事に心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方にも行事に参加して頂いたり、来所持には居室にてゆっくり話をしている。地域の行事や図書館、買物等にも出掛けたりしている。	入居者のこれまでの生活歴の聞き取りをし、ケアに活かしている。家族と墓参に行ったり、職員と共に喫茶店や図書館、買い物にも出かけて、関係が途切れないように支援をしている。散歩で顔馴染みになった人との触れ合いから、今の地域での顔馴染みができるように心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが調整役となり、おやつやレク、散歩時などお互いが交流できる様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談等があれば今まで通りと同じように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人をとりまく人々から情報を得て、本人の生活意欲向上につながるように計画に取り入れ対応している。	日常の入居者との関わりや会話からくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったりしている。困難な時は、家族が来訪した時に聴くようにしている。随時職員間で話し合い、思いに沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や今までのサービス利用関係者より情報を得た中で、スタッフ全員が日々の暮らしの中で関わり合いを持ちながら把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の利用者様同士の会話や、連絡ノート、記録により、スタッフ全員が共有して把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、担当スタッフ、ケアマネの参加で担当者会議を開催し、意見を出し合って現状に合った無理のない計画を立てて見直し、モニタリングも行っている。	6か月に1度本人や家族が参加し、介護計画の見直しが行われている。担当制を敷いてケアをしているが、担当以外の職員も入居者の状態を把握し、同様にケアができるようにしている。また、状況や状態の変化に応じて随時見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルがあり、バイタル、食事量、入浴、排泄、面会、外出記録、特記事項等にてスタッフが共有して具体的に書いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族のニーズに対応して現状に合った対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの訪問を受け、リラックスした楽しい時間を過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時の説明、確認をする事で納得の得られた病院に受診している。	かかりつけ医、提携医を入所時に希望を聞いて選んで頂いている。内科、歯科の協力医による医療体制が整えられている。職員が付き添い受診の対応をしている。受診結果は連絡帳に記入し、家族には書面で報告をしている。家族と受診した場合は、聞き取りをして記入し、把握している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で体調変化に気を付けているので早期発見が来ている。状態によりその日に受診対応して、申し送りによりスタッフ全員が共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に付き添ったスタッフにより医師からの情報を得ており、記録よりその時点の連絡を全スタッフが共有できる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明にて確認を取っている。急な体調変化等に対しては、家族と話し合い、最良の方法で取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針については、入居時に家族に説明をし同意を得ている。入居者の身体状態に合わせてその都度、具体的支援等を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てずに適切な行動が取れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練を実施している。 地域の人々の協力が実際に得られるように運営推進会議にて協力体制を築いている。避難ルートはフロア、玄関に掲示してある。	深夜を想定した職員体制での地震・火災訓練を含め年2回実施している。また、日常の勤務者の災害時の役割が決められ、分かりやすい場所に掲示している。入居者一人ひとりの衣類等をいれた避難袋をロッカー室に用意している。近所に訓練のお知らせをし、訓練に参加された方もいる。	行政や消防署の協力を得て、緊急時に必要とされる備蓄品をリスト化し保管することを願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個人にあった声掛けをするように配慮している。他利用者様のいる場所でプライバシーに関する話はしないようにしている。	個人的なことはみんなの前では言わない、入居者の部屋に入るときには声をかける、一人ひとりを尊重するように名前をさん付けにする等、カンファレンスで振り返りをして確認し、プライバシーを守るケアに努めている。また、家族が嫌な思いをしないように、職員への意識付けに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己主張の出来ない人は、居室等でゆっくり話をして思っている事や希望している事が決められるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはあるが、利用者様の体調、気持ちを尊重し、柔軟に対応する中で、個人のペースにあった生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品、衣類など利用者様個人の希望にスタッフが対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月利用者様から希望メニューを聴取し取り入れている。作業、配膳への声掛けにて参加を促している。	入居者と職員が食卓を囲み、食材の話しながら食事を楽しんでいる。野菜の皮むき、台ふき、食器洗い等入居者ができることを手伝ったり、職員と一緒に買い物にも出かけている。四季折々の食事も食卓に乗り、日曜日にはおやつを手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を実施、毎食食事量チェック、レク参加で活動量を把握している。一日の水分量が決められている人はチェック表に記入して全スタッフが把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをスタッフの声掛けで全利用者様施行している。夜勤帯で義歯を洗浄剤に浸している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はできる限り布パンツ、パッドで過ごしてもらっている。食前又は食後はトイレ誘導してパターンを把握し、失禁減少に努めている。	一人ひとりに寄り添い、素振りを見ながら誘導をしている。排泄記録表を基にそれぞれの排泄パターンを把握し、きめ細やかなケアに努めている。紙パンツから布パンツに変更できた入居者もいる。夜間も声かけをして、失禁のないケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、野菜、運動、牛乳など取り入れている。医師から指示の下剤使用者あり。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応曜日に分けて決めているが、清潔保持の為、夏場は殆ど全員が毎日入浴している。利用者様により個々の援助を行っている。	午後の時間帯で、一人ひとりの希望に合わせて入浴をしている。毎日入浴する入居者もいる。既往症により個人の石鹸を使用したり、タオルは個人用とする等、細やかな対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個人の意志で自由に過ごせるように支援している。利用者様の体調に合わせてスタッフが促す場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の担当者が服薬セットを任されている。受信時の記録にて症状を全スタッフが把握し観察した内容を記事に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人一人の持っている力を発揮してもらえるように促し、実施している。施行後は必ず感謝の言葉をかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	習慣として散歩に行っている。食事の買い物、図書館、催し物、行事等でも外出の機会を設けている。利用者様個人の買い物でスタッフ同行での外出もある。	田畑の続く立地のため四季の移ろいを感じながら日常的に散歩をしている。スタッフとは散歩によく出かけている。事業所内の畑の作業を手分けして行ったり収穫を楽しんだりしている。洗濯物干しも、協力して行っている。喫茶店や化粧品や下着などの買い物にも出かけている。花見、菖蒲、紅葉狩り等にも出かける機会がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要物品は預り金にて購入している。スタッフと同行しての個人の買い物も家族の依頼により預り金にて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞い、その他の手紙もスタッフ見守りで書き、郵送している。友人、家族への電話連絡も許可されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関より共有空間はバリアフリーとなっている。家庭の延長の雰囲気大切に個々がリラックスして過ごせるように心がけている。	食堂から居間の空間までよく見渡せて、職員がどこにいても分かるようになっている。居間のソファは、入居者が安心して座れるようにほぼ定位置にしており、テレビを見たり会話をして楽しんでいる。新聞、雑誌が配置され、入居者が目を通し自由な時を過ごせるようにしている。入居者と一緒に季節に合った装飾品を制作する機会もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座る場所が自然に決まっており、気の合う者同士、楽しそうに会話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は今まで自宅で使用していた物を持ち込んで頂く様お願いしており、使い勝手の良いように入居時、家人と自由に配置している。	入居時に家族と共に自室を、住みやすく使いやすいように工夫をしている。自宅で使用していた物を持ち込んで、安心できるスペースを確保し生活の場になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるように、扉にトイレ、風呂等貼っている。安全に歩行、シルバーカー、車椅子移動もでき、スタッフが一目で見れるように配慮されている。		